

図書館だより

No.173



2009(平成21)年10月2日発行
編集・発行 福島県立図書館
〒960-8003 福島市森合字西養山1番地
TEL 024-535-3218 fax 024-536-4787
<http://www.library.fks.ed.jp/>

この秋、図書館では展示・講座が目白押しです！

県立図書館ではこの秋もさまざまな展示、講座を予定しています。図書館で芸術の秋を感じてみてはいかがでしょうか。ぜひ、皆さまそろって足をお運びください。

<展示>

生誕100年記念

ヴァージニア・リー・バートンの世界展

～元気なのいものたち～

ヴァージニア・リー・バートン
(1909-1968)
アメリカの絵本作家。

代表作:
『いたずらきかんしゃちゅうちゅう』
『ちいさいおうち』

ヴァージニア・リー・バートン生誕100年を記念して、バートンの人となりやその作品を紹介します。また、バートンの作品が乗り物を主人公としたものが多いことから、子どもたちに人気の乗り物絵本を併せて紹介します。

場所: 当館・展示コーナー
期間: 平成21年10月2日(金)
～平成22年1月6日

<ロビー展示>

福島南高校美術部展

福島南高校美術部員による絵画作品を展示します。

場所: 当館・ロビー
期間: 平成21年10月2日(金)～10月24日(土)

<時事コーナー展示>

生誕100年の作家たち ～1909年生まれの5人を読む～

松本清張や太宰治を始め、今年生誕100年となる作家たちの著作や、彼らに関連する資料を展示します。

場所: 当館・時事展示コーナー
期間: 平成21年10月2日(金)～12月2日(水)

<今後の講座予定> 10月～12月にかけての講座についてご案内します。

- 10月29日(木) はじめてのインターネット使い方講座
- 11月 7日(土)・11日(水) 新聞・雑誌記事の探し方講座
- 11月21日(土) 本や情報の探し方講座
- 11月28日(土) 連携講座「就職を成功させるために ～仕事のマナーと人脈を活かそう～」
- 11月29日(日) 太田隆夫氏 講演会「大正五年福島市を訪れた文学者たち～牧水・茂吉・賢治・百合子の四名～」
- 12月12日(土) 連携講座「介護保険の仕組みと利用 ～上手に使おう！介護保険～」

新着案内

各分野の担当者が選んだ、お勧めの新着資料をご紹介します。

人文・自然

『壊れても仏像 文化財修復のはなし』

飯泉 太子宗/著 白水社 2009.6 718/円096/
仏像・文化財の修復を行っている著者が語る仏像をとりまく世界。仏像が壊れる訳、仏像の残欠から像名や寸法、制作年代も推定できること、良い修理とは何かなど興味深い話が盛りだくさん。著者自身による写真や図版も多数あり、わかりやすく解説されています。有名な仏像は、ほとんどすべてが修理を受けているとのこと。読後は今までとは違う角度から仏像鑑賞を楽しむことができそうです。

『科学に親しむ3000冊 ナノテクからブラックホールまで』日外アソシエーツ/編集 紀伊国屋書店(発売) 2009.2 403.1/円092

ペンギンについて書かれた本を探すとき、この本を開いてみてください。種類、生態、生息地、日本との関わりなど、様々な観点から書かれたペンギンについての本が紹介されています。

ここ20年間に刊行された自然科学分野の本を、一冊ずつ楽しく紹介した読書案内です。簡単な内容紹介もあり、理解を助けます。巻末に事項名索引があり検索に便利です。

社会

『横浜中華街 世界最強のチャイナタウン』 (中公新書ラクレ)

田中 健之/著 中央公論新社
2009.7 213.7/円097/

今年開港150周年の横浜港。それと共に横浜中華街の歴史は始まりました。

大震災や戦争、国共分裂などの波乱を華僑の知恵と努力で乗り越え、今も世界で最も安全なチャイナタウンとして発展を続けています。

そんな横浜中華街の真の姿を知れば、旅もまたひと味もふた味も違った楽しみ方ができること請け合いです。秋の観光シーズン到来に備えてのオススメ本です。

『防災・救急に役立つ日用品活用法』

羽田 道信/著 風媒社 2009.5 369.3/円095

毛布や、風呂敷、ゴミ袋、ダンボール箱、レジ袋など、ふだん何気なく使っている身の回りにあるものを使っての活用例と、その作る手順ならびに手技を、連続写真でわかりやすく解説しています。

毛布が応急担架に、ゴミ袋を防寒着・カップに、またブルーシートを使ってテントを作る方法、ハンカチを包帯がわりにする方法など、いざというときに役立つ救急・救助のための知恵を紹介しています。

雑誌・新聞

ここに来て再び猛威を振るっている「新型インフルエンザ」に関する記事をご紹介します。

『週刊金曜日』2009.5.15 発行 金曜日 Z051/S17
—「パンデミック」危機が煽られた真相(豚インフルエンザ・パニック)

『週刊文春』2009.5.28 発行 文芸春秋 Z051/S21
—「全例を捕捉し封じ込めることはとてもできません」指定病院医師の告発メール 厚労省「簡易テスト」を信じるな(総力取材 新型インフルエンザ「戒厳令」で日本は死ぬ)

『新潮45』2009.7 発行 新潮社 Z051/S31
—特集 パンデミックは終わっていない

『Voice』2009.7 発行 PHP 研究所 Z051/V1
—過剰騒ぎの裏にある無責任(話題のテーマに賛否両論! 新型インフルエンザ対策)

『世界』2009.7 発行 岩波書店 Z051/S1
—これは真の新型インフルエンザなのか?(インフルエンザ・パニック)

『文芸春秋』2009.7 発行 文芸春秋 Z051/B2
—メキシコ現地で見えた 新型インフルエンザ驚愕の真実—ウイルスの源流に潜入。初めてわかった爆発的流行の理由

地域

『中通りの郷土料理』

平出 美穂子/著 歴史春秋出版 2009.5
L596.1/H2/3

地産地消やスローフードが見直される今日、郷土料理を作ってみませんか? 昨年、刊行された『会津の郷土料理』に続く県内の郷土料理を扱ったシリーズの第2弾。福島市周辺の「いか人参」、川俣町の「のっぺ汁」、二本松市の「ざくざく」など中通り各地の郷土料理の由来や作り方が、写真とともに丁寧に紹介されている一冊です。

『土に書いた言葉 吉野せいアンソロジー』 吉野 せい/著, 山下 多恵子/編・解説 未知谷 2009.3 L918.6/Y1/2

吉野せいとは1899(明治32)年、現在のいわき市に生まれました。若き日、文学を志しますが、詩人で開拓農民であった三野混沌と結婚し、開墾生活に入ります。夫が逝った後、堰を切ったように再び書き始めた時、せいには70歳を越えていました。75歳で短編集『涙をたらした神』が大宅壮一ノンフィクション賞と田村俊子賞を受賞します。

『涙をたらした神』、『梨花』、『私は百姓女』など、決して楽とはいえない開墾生活の中で、数々の苦しみや悲しみに彩られた人生を綴った作品からは、生きることへのひたむきさが感じられます。